

平成27年度石西礁湖自然再生協議会海域対策ワーキンググループ
第1回オニヒトデ対策小グループ議事概要

日時：平成27年6月29日（月）14：00～15：30

場所：国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター多目的レクチャー室

参加者

石垣島マリンレジャー協同組合：磯崎

石垣市農林水産部水産課：比嘉

石垣市市民保健部環境課：慶田城

環境省那覇自然環境事務所石垣自然保護官事務所（事務局）：若松、齋藤、神保

内閣府沖縄総合事務局石垣港湾事務所（事務局）：與那嶺

議事1)、2) 平成26年度のオニヒトデ駆除実績及び平成27年度のオニヒトデ駆除計画
または実施状況について

◆石垣市農林水産部水産課

- ・資料に基づき、水産多面的機能発揮対策事業による平成26年度駆除結果を報告
- ・本年度の実施計画については、予算規模や駆除位置、時期は同じ

以下、質問事項等

(慶田城) 数年間同じ場所で駆除されているとのことだが、この場所でのオニヒトデの状況はいかがか。

(比 嘉) 全体的に減ってきている様子。

(若 松) 本年度の請負先は決まっているのか。

(比 嘉) 石垣市サンゴ礁保全対策活動組織が実施する。

(與那嶺) 報告事項の「石垣市サンゴ礁保全対策活動組織」とはどのような組織か。

(比 嘉) 八重山漁業協同組合の組合員で構成される組織である。県協議会で協議し、活動組織である石垣市サンゴ礁保全対策活動組織が実施する。

(齋 藤) 昨年度はモニタリングを広範囲で実施されていたと思うが、本年度も同様に行うのか。また、駆除位置は例年同様とのことだが、モニタリング結果は駆除エリアの選定に反映されるのか。

(比 嘉) 予算の規模による回数は決まっているが、モニタリングの結果によって駆除位置を変えていくことはありうる。

◆石垣市生活環境部環境課

- ・平成 26 年度のオニヒトデ駆除・サンゴ保全事業では、名蔵湾の 8 ポイントでモニタリングを実施したが、ほとんどオニヒトデが発見されず事業を縮小した。
- ・本年度については、昨年度の状況を踏まえて実施を予定していない。

以下、質問事項等

- (若 松) モニタリングするという話もなくなったのか。
- (慶田城) モニタリングの予算もとってない。するとしても、沖縄県との業務分担を確認しながらやりたい。
- (齋 藤) 役割分担を明確にして事業化していくという話はどうなったのか。
- (慶田城) 内部調整が進んでいない。水産課との業務分担の経緯も不明で、環境課が名蔵湾で行っている理由も説明しにくい。水産課は水産資源の保全ということで目的が若干違うが、サンゴ保全という共通の目的があるので調整していきたい。それから、職員に海の専門家がいないので、モニタリング結果や検査結果の判断が難しい。現在は再委託して検査を実施しており、担当が現場を把握していないので、できれば担当が直接確認できることが望ましい。エリア選定も然り、モニタリングや検査は他機関との協力でやっていければ有難い。
- (與那嶺) 他の事業と同様に、全体の写真を撮るしかないのではないのか。
- (慶田城) 場所による違いがあり、それを 1 枚の写真に収めることができない。報告として結果の数字をあげてもらっても、信頼性が確保できない。
- (若 松) どこの行政も専門家はいない。施工監理という考え方もあるが、環境省ではそこに予算をかけるくらいならば駆除をするという考え方である。事業を請負う漁業関係者やマリレジャー関係者もサンゴを守りたいという共通の目的を持っているので、出てきた結果は全面的に信用している。
- (磯 崎) 自分も事務方なので現場は見えていないが、駆除数は信用してよいと思う。
- (若 松) 厳密にやるならば、施工監理を出すしかないが、予算が 1.5 倍くらいになるのではないのか。
- (慶田城) モニタリングと最後の検査だけは、セットにして第 3 者に発注すれば効率的ではないのか。
- (若 松) 検査は都度行う必要がある。酢酸注入法の場合は 1 週間以内で消えてしまうし、波浪で死骸が流される可能性もある。また、環境省の場合はまだそういった指摘を受けたことはない。
- (慶田城) 意見を踏まえると検査についてはこれまでどおりでもよいと考えるが、業務分担は調整しておきたい。竹富町はなぜ駆除事業を持っていないのかも気になる。交付金であっても何割かは基礎自治体が負担するので、石西礁湖で駆除するのであれば竹富町も担当するのが自然なのではないか。また、色々なところに資金が分散しているが、エリア分担も難しい面があるので、県など 1 箇所に役割

を集中させたほうが効率的ではないか。

(若 松) 大発生した5年前には、役割分担の議論以前に緊急的に様々な予算をつぎ込む必要があったため、その際に現在の場所になったのではないか。このような議論が出て来るのは、ひとまず落ち着いている証拠かもしれない。

(慶田城) オニヒトデ駆除の枠組みをひとつつくり、すべての予算と人員を一括でつぎ込み、検査もそこでするようにしてはどうか。それに対する各機関の出資の割合も決まれば負担額も一定になる。

(若 松) 音頭をとるとすれば地元自治体になると思うが、どこも人員的に苦しいので厳しいのではないか。

(與那嶺) 合理的だから新しい組織をつくるというのは、それぞれの行政機関の存在意義を否定している話になるし、新たな組織を作るのは財務の関係でもハードルが高い。このワーキンググループで業務分担を話合うのが有効なのではないか。石垣市の予算は変動するのか。

(慶田城) 昔は駆除事業を実施していなかったが、大発生してから交付金事業が開始した。現在は収束しているため、環境課の中では終わったものという認識がある。

(與那嶺) 今は収束しているから一休みするとかいう話も出来ると思う。

(慶田城) 完全に今回で手を引いてしまうのも、それはそれで今後のことが整理できていないため不安がある。県の立場であれば、石垣市も継続して予算を確保するよう言うのではないかと思う。

(與那嶺) 一度やめたら復活させるのは難しいので、細々続けてはいかがか。

(慶田城) (その為に) 海域の駆除所掌を整理できれば、そこで責任をもってやっていきますというふうに言えるし、予算取りもしやすくなる。名蔵湾でいろんな主体がやっていたのも認知していなかった。

(磯 崎) 範囲が広いので県がやっていた可能性はある。駆除エリアを決める際は、県と市の駆除位置はかぶらないようにずらしている。

(與那嶺) まさに、そういったことをここで話合ったら良い。

◆沖縄県環境部自然保護・緑化推進課

- ・平成26年度サンゴ礁保全活動支援事業（助成事業）による駆除実施状況について、資料に沿って報告。
- ・本年度は、オニヒトデが収束している石垣島から最近オニヒトデが発生している宮古島に回されるため実施計画なし。

以下、質問事項等

(磯 崎) 石垣島周辺では、米原以外サンゴが少なく、オニヒトデも少ない。

(若 松) 名蔵湾は前年度3組織が駆除していたが、石垣市環境課の実績数が前年度少な

かったのはその影響もあるのではないか。

(磯 崎) モニタリングはスノーケルが基本なので、潜水してみないとオニヒトデがいるかいないかは分からない。

(慶田城) 沖縄県のオニヒトデ駆除に係る助成額に上限はあるのか。

(磯 崎) 上限は500万。本年度は宮古の方で発生しているため沖縄県のオニヒトデ駆除に係る助成は宮古のみになっている。モニタリングだけであれば予算はあるらしいが。今日の報告を聞くと、本年度は名蔵湾で誰も実施しないのではないか。

(齋 藤) 小さい個体はいるという話を耳にしている。

(若 松) いきなり手薄になれば、名蔵湾が危ないのでは。

(與那嶺) 八重山環境ネットワークで報告された、オニヒトデが最近収束しているという話の実態はどうか。

(若 松) 餌のサンゴがなくなればなくなるということはあるが、もともと生態系にいるので全くなくなるということは無く、変動があり、手を抜いて良いというものではない。2010年頃のピーク時と現在を比較して駆除数は少なくなっているが、少しオニヒトデが増えてきて話題になるとみんなが動き出すので、駆除数の増減にはそういったことも影響している。

(慶田城) 助成で行う駆除エリアは決まっているのか。

(磯 崎) 決まっていない。こちらから事業計画を提出する。

◆石垣自然保護官事務所

- ・資料に沿って報告。自然環境保全地域と国立公園（海域公園地区）を対象とした2つの駆除事業を実施している。自然環境保全地域の事業は昨年度から開始しており、網取湾の区域拡張にあわせて事業化したもの。対象は崎山湾・網取湾で、2、3月に計5回の駆除を実施し、相当数駆除された。国立公園（海域公園地区）の事業については、石西礁湖の中でも発生数が多い竹富島北西で集中的に年間を通じて駆除を行った。
- ・本年度の計画について、自然環境保全地域である崎山湾・網取湾については、10月頃から駆除を開始する予定であり、国立公園（海域公園地区）については、予算が増額したため駆除エリアを拡大し、保全すべき良好なサンゴがある場所やオニヒトデの発生の可能性のある場所などで実施する計画である。
- ・石垣島マリンレジャー協同組合磯崎氏より、本年度事業の実施状況について捕捉の報告があった。

(磯 崎) 現段階で15回実施している。インダビシ周辺で多く駆除されている（2枚目）が、そのほかは0～数匹。食痕はあるが、個体は確認されないところが多い。インダビシについては、特に資料で赤くしているポイントがサンゴがきれいなポイントとなっており、駆除数も多い。枝状サンゴが多いところは、レイシガ

イが多く（500匹くらい）いる。見つけたら事業外だができる範囲で駆除している。また、去年は小さい個体が多かったが、今年は大型が多い。昨年駆除されなかった個体が成長したのではないか。

議事3) その他

- ・特になし

以上